

国外の宗教ニュース

2013年10月～12月

【項目】

1. 東アジア・太平洋地域
2. 東南アジア
3. 南アジア
4. 中東・西アジア
5. アフリカ
6. 東ヨーロッパ
7. 西ヨーロッパ
8. 北米・中南米

【1. 東アジア・太平洋地域】

◆韓国

* 対馬の仏像盗難犯、2 審も実刑

対馬の仏像を盗んで起訴されていた実行犯3人は、7月の大田地裁の判決で文化財保護法違反などの罪で懲役3～4年の実刑を言い渡された。10月30日の控訴審で大田高裁は、一審の実刑判決を支持し被告らの控訴を棄却した（読売10/31ほか）。仏像の日本返還に反対が続くなか、韓国人僧侶慧門氏が11月25日に、韓国政府に仏像の日本への早期返還を求める行政審判を請求した。同氏は「盗品は持ち主に返すことが当然」として、仏像2体のうち1体の返還を求めている（東京11/28ほか）。

[→『ラーク便り』58号小特集①、59号29頁、60号33頁参照]

* 釜山でWCC世界大会

10月30日～11月8日、世界教会協議会(WCC)第10回総会が、2006年のブラジルでの大会以来7年ぶりに韓国の釜山で開かれ、100を超える国や地域から4千人以上が

参加した。テーマは「生命の神、私たちを正義と平和に導いてください」。開会礼拝は、世界各地のさまざまな伝統を重んじる連続祈禱によって行われた。トゥベイト総幹事は韓国での開催について、「分断された朝鮮半島の再統一を呼びかけてきた韓国の教会との連帯を表明する地球規模の友好の場」と期待を込めたが、北朝鮮は参加しなかった。大会は11月8日の中央委員会で、ケニア聖公会のアグネス・アブオム氏を初の女性議長に全員一致で選出、8人の新会長とさまざまな教派に属する中央委員150人を選んで終幕した。日本からは聖公会司祭で立教大学副総長の西原廉太氏が再任された。なおバチカンは同総会に27人の使節団を派遣した（キリスト11/16ほか）。

* 延坪島砲撃から3年、追悼式典

北朝鮮による延坪島砲撃から3年となる11月23日に、韓国政府主催の犠牲者4人の追悼式がソウルの戦争記念館で開かれた。遺族や市民ら4千人が出席したなか、チョンホンフオン鄭烘原首相は、追悼の言葉とともに北朝鮮の挑発を容認しない姿勢を示した。延坪島砲撃は、2010年に、北朝鮮側から南北境界水域にある延坪島に向けて砲弾約170発が発射され、韓国側の兵士2人と民間人2人が死亡したほか、兵士16人と多数の島民が負傷した事件である（産経11/24ほか）。

◆北朝鮮

* 宣教師を「スパイ」と逮捕

北朝鮮の治安機関が、平壤に潜入した韓国人キリスト教宣教師の男性・金ジョンウク氏(50)を「韓国情報機関のスパイ」だとし、逮捕していたことが11月22日に明らかになった。金氏は中国遼寧省丹東で約6年前から布教活動を行っていたバプテスト派の宣教師で、10月7日頃、中朝国境から単独で北朝鮮に入ったとみられる。北朝鮮で地下教会の信者に布教活動を行うために密入国した可能性があるが、容疑内容は不明。韓国では政府の許可